

別紙1 参考様式

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
日置市	伊作田地区	令和4年2月10日	平成29年9月20日

(赤崎、江口、川北、平迫比良、上伊作田、中伊作田、元伊作田、柿之迫集落)

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	48.5ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	43.5ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	37.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4.2ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	5.6ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	14.2ha
(備考) 後継者の未定・不明については、面積狭小・日照不足等、条件不利地のため、経営体が引き受けにくい状況にあるが、中心経営体である集落営農組織を核に農地の集積を図り耕作放棄地の発生がないよう図りたい。	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

<p>地元にいる認定農業者や認定新規就農者は10人いる。今後高齢化等で耕作できない農地が発生したら、中心経営体に農地を集積してく。</p>

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>玉田地区の水田については、ほ場条件が良好なため受け手が多いが、中伊作田や柿ノ迫の水田等は高齢化等で耕作できなくなる農地の受け手を探すのが大変だが、今後も担い手に農地の集積を図りたい。</p>

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

